



校長室だより

令和5年度
6月30日
NO. 15

「山のいのちをまもる」里山レスキュー活動

空は薄曇り、秦梨小の裏のにこにこ山は、涼しげな様子を見せています。けれど、実際に山へと入っていく急な階段を登っていくと、汗がにじみ出てきます。6月23日（金）に、にこにこ山で、4～6年生が、「里山レスキュー活動」に取り組みました。暑いけれど、安全のためみんな長袖ですが、みんなやる気満々です。

岡崎市を見ても、全国的にも、学校に山がある学校は、少ないです。そしてこの、「里山レスキュー活動」は、秦梨小独自の活動であり、自然豊かな秦梨小とは、切っても切れない活動です。今回も、私たちに、



いろいろ教えてくれるのは「山仕事のサポーター」の鈴木さんと川澄さんです。サポーターの方にも言われたことは、「山は生きている」ということです。だから、



山を守ってあげるのだと。教頭先生からも、山の役割について、いろいろなお話をいただきました。先日も大雨でしたが、こうした山がなければ降った雨はすべて川に流れ込み、もしかしたら学校の前の乙川も氾濫していたかもしれないと思うと、他人事ではありません。また山が守られるということは、山の植物や動物の命も守られるということで、

しいては、秦梨の自然が守られ、皆の生活も守られることでしょう。山は1日1日何も変化のないようでも、少しずつ変化しています。生きています。当然四季によって景色は変わります。山の中に以前あった「キンラン群生地」や「ヒメカンアオイ群生地」も今は、あまり見当たりません。今はほとんど見られない「ササユリ」も、以前は多く見られたそうです。人が採ってしまったわけではなく、イノシシなどの動物も食べてしまうそうです。だから、「山を守る」ことは、大変なことなのです。人が、守っていかなければならないのです。市内のほかの学校でも、ササユリを守っている学校はありますが、自然に放っておくのでなく、やはりみんなで大事に保護しているそうです。

活動を通して、子供たちは多くのことを学びます。教えてもらいます。「なんで『カブトムシランド』なの」「キンランはどれ」「杉の葉っぱはチクチクする」「この草はとってもいいの」「この木は、どこに捨てればいい」「ブランコのロープを直して、乗りやすくしたいね」「昔、もっと遊ぶ道具があったみたい」「センリョウは、もう少し日が当たった方がいいね」「エビネランはどんな花が咲くの」「この葉っぱ何かに似てるね」「チョウチョがいるよ」「人が山に入れるように階段の葉っぱはとってもね」「カマは田んぼの草取りでも使ったね」「〇〇ちゃん、これ一緒に運ぼう」…。机の上ではなかなか学べないことがたくさんです。

近くのビオトープを見て、中根先生が言いました。「こんなにたくさん自然のクロメダカがいて、秦梨はいい環境だよ」と。これまで、多くの子や、多くの学区の方の力で、今の秦梨が守られてきたのを感じます。

